

国営讃岐まんのう公園整備プログラム（案）に対する 意見の募集について

現在、国営公園では、事業実施過程の透明性確保等の観点から、国営公園の整備及び管理に関する重点事項や開園計画等を内容とする「国営公園整備プログラム」（以下、「整備プログラム」）を策定・公表し、当該整備プログラムに基づいて事業を実施しています。

国営讃岐まんのう公園においても、平成15年度に策定し、平成16年度に改定した整備プログラムに基づいて事業の進捗を図っているところです。そして、現在平成20年度から平成24年度までの5年間の計画期間とした次期整備プログラムの策定を行っております。

つきましては、「国営讃岐まんのう公園整備プログラム（案）」を作成いたしましたので、幅広く皆様からの意見を募集いたします。

平成21年2月16日

国土交通省 四国地方整備局

問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局 建政部
都市・住宅整備課長 なかむら 中 村 たかし 孝

Tel (087) 851-8061 (代)

国土交通省 四国地方整備局 国営讃岐まんのう公園事務所
調査・品質確保課長 たかはし 高 橋 としや 俊也

Tel (0877) 79-2933 (代)

国営讃岐まんのう公園整備プログラム（案）に対する意見募集要領

1. 意見募集対象

国営讃岐まんのう公園整備プログラム（案）
（計画期間：平成20年度～平成24年度）

2. 資料入手方法

国土交通省 四国地方整備局又は国営讃岐まんのう公園のホームページからダウンロードしていただくか、下記の場所で配布しております。

●ホームページアドレス

- ・国土交通省 四国地方整備局 建政部 <http://www.skr.mlit.go.jp/kensei/>
- ・国営讃岐まんのう公園 <http://www.mannoukouen.go.jp/>

●資料配付窓口

- ・国土交通省四国地方整備局 建政部 都市・住宅整備課 公園係
- ・国土交通省四国地方整備局 国営讃岐まんのう公園事務所 調査・品質確保課
- ・国営讃岐まんのう公園 エントランス（案内所）

3. 意見の提出方法

以下のいずれかの方法で四国地方整備局 国営讃岐まんのう公園事務所 調査・品質確保課まで、意見応募用紙にご意見を日本語で記入のうえ送付してください。

なお、ご意見を正確に把握する必要があるため、電話によるご意見はご遠慮願います。

1) FAXの場合

FAX番号：0877-79-3790へご送信ください。

2) 郵送の場合

〒766-0023 香川県仲多度郡まんのう町吉野4243-12

四国地方整備局 国営讃岐まんのう公園事務所 調査・品質確保課 宛にご送付ください。

3) 電子メールの場合

意見提出用紙にご意見を記入の上、

電子メールアドレス：mannoa60@skr.mlit.go.jp へ件名を「整備プログラム意見提出」としてご送信ください。

4. 意見募集期間

平成21年2月16日（月）～平成21年3月5日（木）

5. ご意見等の取扱いについて

- いただいたご意見は「国営讃岐まんのう公園整備プログラム」の検討目的以外には利用いたしません。
- いただいたご意見に対する個別の回答はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。
- いただいたご意見は、個人が特定されない情報として、ホームページ等で公表させていただく場合があります。
- 皆様からいただきましたご意見は、十分な検討を踏まえて「国営讃岐まんのう公園整備プログラム」に反映していきます。
また、その結果についてはホームページ等でお知らせします。

「国営讃岐まんのう公園整備プログラム（案）」に対する意見応募用紙

(ふりがな) 氏 名	※必須ではありません。
年齢・性別	該当する箇所に印をつけてください。 (年齢) (性別) <input type="checkbox"/> 20歳未満 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70歳以上
住 所	※都道府県名と市区町村名をお書きください。 都・道 市・区 府・県 町・村
職 業	該当する箇所に印をつけてください。 <input type="checkbox"/> 会社員 <input type="checkbox"/> 自由業 <input type="checkbox"/> 公務員 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 無職 <input type="checkbox"/> その他 ()
公 園 の 利 用 回 数	※国営讃岐まんのう公園を利用されたことがありますか。 該当する箇所に印をつけてください。 <input type="checkbox"/> 1回 <input type="checkbox"/> 2～4回 <input type="checkbox"/> 5～9回 <input type="checkbox"/> 10回以上 <input type="checkbox"/> 無い
ご 意 見	(Blank area for comments)

国営讃岐まんのう公園 整備プログラム（案）



マスコットキャラクター：ドラ^{どらむ}夢



平成21年2月

国土交通省 四国地方整備局

目 次

I. 全体計画及び開園状況

1. 全体計画	1
2. 開園状況、経緯	1
3. 利用の状況	1
国営讃岐まんのう公園ゾーニング図	2

II. 平成24年度までの整備・管理・運営の方針等

1. 公園整備・管理運営の重要点事項	4
基本方針	4
公園づくりの考え方	4
2. 今後5年間の整備方針	5
健康ゾーンの整備の考え方	5
自然活用ゾーンの整備の考え方	7
土地利用についての考え方	7
開園スケジュールの考え方	9
開園計画イメージ	9
3. 管理運営方針	10
維持・管理・運営内容	10
利用促進内容	11
具体的な取組み	11
4. 今後5年間の事業に伴い期待される効果	13

国営讃岐まんのう公園整備プログラム

I. 全体計画及び開園状況

1. 全体計画

国営讃岐まんのう公園は、香川県まんのう町にあるわが国最大級のため池である「満濃池」に接する約350haの区域に、四国では初めての国営公園として昭和59年度から整備を進めています。

緑豊かな山並みと広々とした満濃池の水面を望むならかな丘陵地に位置する国営讃岐まんのう公園は、空海が一つの偉業として後世に遺した満濃池とその周辺の豊かな自然、そして空海を生んだ四国の文化的土壌を活かし、基本テーマを『人間との語り、自然・宇宙とのふれあい』としています。



見晴らしの山展望台からの眺望

2. 開園状況、経緯

昭和62年10月：工事着手

平成10年 4月：中央広場ゾーン、宿泊ゾーン等の第一期開園（供用面積約80ha）

平成12年 4月：北口園路・総合センターの追加開園（供用面積約96ha）

平成14年 4月：自然生態園の追加開園（供用面積約111ha）

平成17年 3月：満濃池展望遊歩道の追加開園（供用面積約112ha）

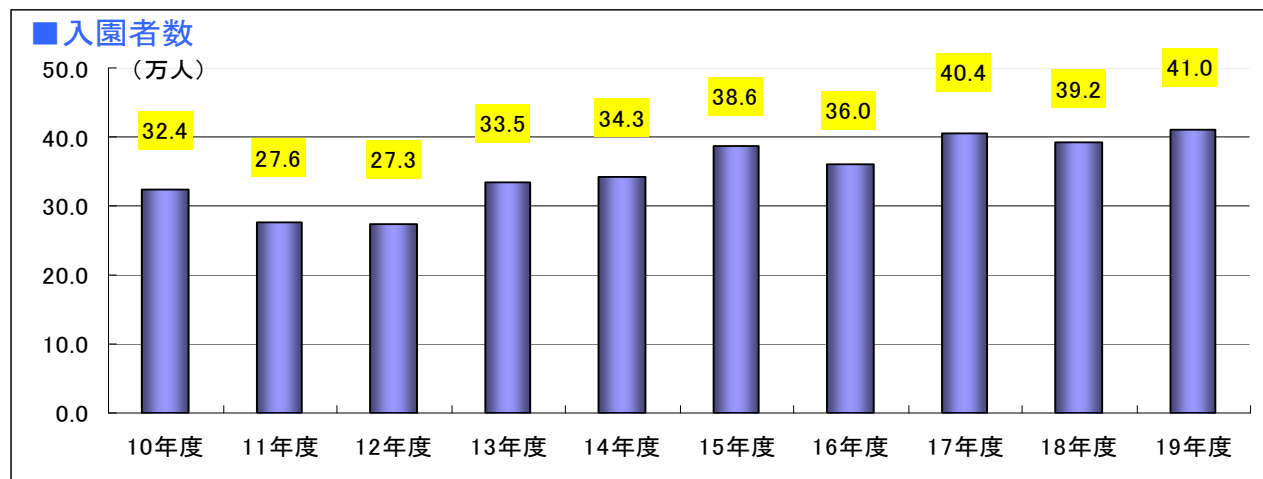
平成18年12月：湖畔通り線園路の追加開園（供用面積約114ha）

平成20年 3月：湖畔ゾーン一帯の追加開園（供用面積約154ha）

平成20年 4月：全天候型多目的運動場・芝生広場の追加開園（供用面積約158ha）

3. 利用の状況

開園から平成19年度までの入園者数の累計は約350万人であり、平成19年度には過去最高の約41万人の方々に利用されています。



国営讃岐まんのう公園ゾーニング図



〈開園区域の主要な施設〉

中央広場ゾーン



芝生広場：周囲を山々に囲まれた約4haの芝生広場。穏やかな讃岐の風土と、空海が安住の地として描いた“八葉蓮華（はちようれんげ）”の景観イメージを表現しています。



昇竜の滝：滝を昇る竜をイメージした垂直の石組みに沿う滝の落差は9mあります。



竜の子広場：色々な楽しみ方ができる大型遊具や、霧につつまれた龍の祠（ほこら）より流れ出る水と親しめる広場。「パン・ピザ教室」が楽しめる「ドラ夢の家」等、自由な遊び心と創造力をかきたてる子どもたちの遊びの空間です。



まんとう竹風庵：「陶芸教室」などに挑戦できる工房と、静かに庭を眺めながら「お茶」を楽しめる茶室があります。

健康ゾーン



全天候型多目的運動場：雨天・炎天時等、年間を通して健康運動ができる屋根付きの運動広場です。

環境保全ゾーン



満濃池展望遊歩道：満濃池の景観を楽しみながら散策できる全長400mの木製デッキです。



りゅうず
竜頭の森：春にはオンツツジやヤマザクラが開花し、美しい新緑の中での散策が楽しめます。

湖畔ゾーン



岬の棧橋：雄大な満濃池の景観が間近に堪能できる木製のデッキです。

自然活用ゾーン



自然生態園：讃岐地方の“ため池のある里山”環境を復元したフィールドミュージアムです。

宿泊ゾーン



ホッとステイまんのう：最大106家族を収容できる「ホッとステイまんのう」は四国最大級のオートキャンプ場です。

Ⅱ. 平成24年度までの整備・管理・運営の方針等

1. 公園の整備・管理運営の重点事項

基本方針

次の4つの基本方針のもとに、整備・管理・運営を総合的に実施しています。

- (1) 子どもから大人まで、四季を通じて多様なレクリエーション活動が行える公園とします。
- (2) 計画地の特性や地域の文化、歴史、風土等を活かした四国らしい公園とします。
- (3) 四国地域の人々の日帰り利用を主体としますが、滞在型の利用や四国を訪れる観光客の方々も利用できる公園とします。
- (4) 公園の豊かな自然とのふれあいや、様々なレクリエーション活動、イベントを通じて豊かな人間形成に役立つ公園とします。

公園づくりの考え方

「自然環境の保全・活用」を基本に、「健康づくりの推進」、「観光振興への寄与」、「持続可能な社会づくりの推進」を中期的な整備・管理・運営の視点として、具体的には以下の10の考え方に基づき公園づくりを進めます。

- (1) 公園の自然環境条件を反映し、保全と活用の場を明確に区別する公園とします。
- (2) 多様な樹林等の保全・活用の取組みにより、四国らしい里山環境を体験・学習できる公園とします。
- (3) 子どもからお年寄りまで、自分に合った体力づくり、健康づくりが図れる公園とします。
- (4) 豊かな自然や美しい景観の中で「癒し」、「憩い」が感じられる公園とします。
- (5) 「満濃池の眺望」、「花風景」、「紅葉」等、四季を通じて美しい景観が楽しめる公園とします。
- (6) 空海、満濃池及び里山やため池を活用した生活等、地域の歴史・文化等に触れることができる公園とします。
- (7) 園内においてリサイクル・リユースを進め、持続可能な社会の形成に役立つ公園とします。
- (8) 全園において環境を守る知識と技術を学ぶことができる公園とします。
- (9) ユニバーサルデザイン化を進め、多くの人々が楽しめる公園とします。
- (10) 市民に開かれた管理・運営等を進める公園とします。

2. 今後5年間の整備方針

四国有数の花・紅葉風景の中で、子どもからお年寄りまで、自分に合った心身の健康づくりができる「**健康ゾーン**」を整備します。また、自然生態園を中心とした四国らしい里山環境や豊かな自然環境の中で自然観賞、レクリエーション活動、持続可能な社会づくりについての体験・学習ができる「**自然活用ゾーン**」を整備します。

健康ゾーンの整備の考え方

健康づくりの機能を中心としつつ、四季折々の「花風景」を鑑賞したり、花摘みや虫さがし等のレクリエーション機能も併せもつゾーンとして整備します。健康遊具を使った体力づくりや季節を感じながらのウォーキング等、お年寄りから幼児に至る幅広い来園者の皆様方の趣向に合った心身の健康づくりに対応できる魅力ある場をめざします。

① 健康づくりにつながる施設・空間整備

四国の文化ともいえる「歩き遍路」になぞらえて、歩くことを中心に各々の年齢や体力に合わせた健康運動を行える仕組みを設け、楽しみながら健康づくりが図れるものとしします。

また、草花や花木の中を散策し、憩いや癒し等を通じて来園者の皆様方に精神的充足感を提供するとともに、四国の澄んだ夜空でこそ見ることのできる数多くの星々を観察する天体観察などにより自然・宇宙とのふれあいを体感できるようにするなど、心身の健康づくりを図れる場として整備します。

② 四季を通じた観光ポイントである花風景の創出

本公園の主要な観光ポイントともなっている花風景のさらなる展開を図るため、四国らしさ、歴史、風土が感じられる花修景とするなど、四季を通じて来園者の皆様方に楽しんでいただくことのできる環境づくりを行います。



野原のエリア：四季の丘

③ 自然環境への関心を喚起する整備

樹林や草原の中で散策等することで自然を身近に感じていただき、健康運動のための仕組み等には木材等の自然素材を用い、また周辺には動植物が生育できるよう配慮するなど、来園者の皆様方の自然環境への関心を喚起する整備を行います。

また、公園内で発生する間伐材等をチップ化して散策路や花壇に活用するなど、持続可能な社会づくりを進めていきます。



お花見エリア：花の丘の散歩道

健康ゾーンの整備イメージ



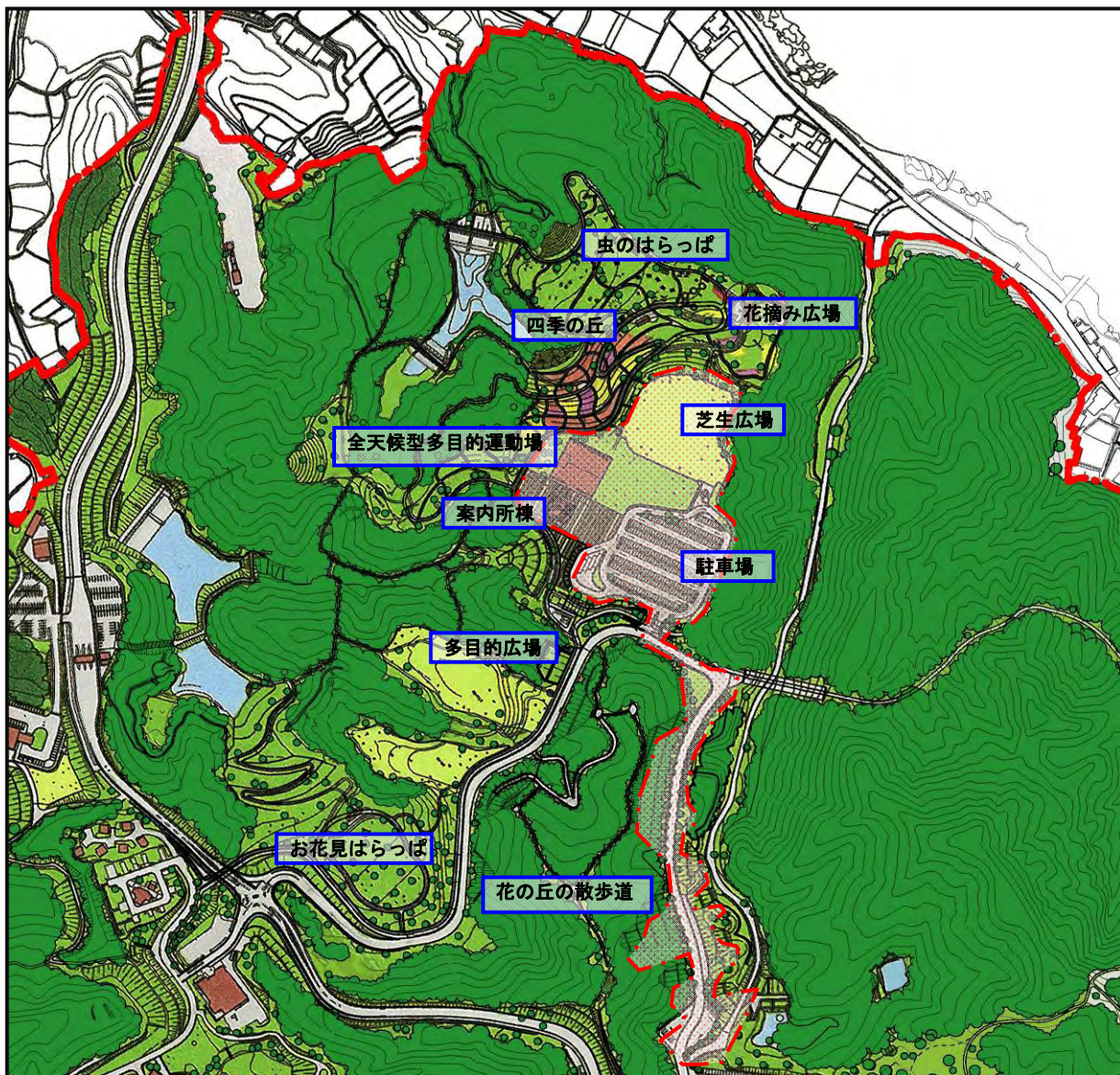
野原のエリア：四季の丘



野原のエリア：花摘み広場




野原のエリア：虫のはらっぱ



お花見エリア：花の丘の散歩道



お花見エリア：お花見はらっぱ

 : 平成 20 年 4 月 26 日 供用区域

自然活用ゾーンの整備の考え方

自然環境の保全・活用や持続可能な社会づくりの機能を中心としつつ、健康づくりの機能も併せ持つゾーンとして整備します。

放置された里山林の健全化を図る樹林管理を実施するとともに、この樹林管理で発生する植物性廃棄物をリサイクルするなど先導的な取り組みを行います。また、この取り組みによって回復された豊かな自然環境を活かして、心身の健康づくりや観光振興にも寄与していきます。

① 豊かな自然環境を活かした空間整備

かつてアカマツやコナラの薪炭林として活用されていた四国本来の里山林を保全することを念頭に、ゾーン内に放置された樹林を適切に管理し、健全な自然環境を回復させ、生物多様性を確保します。また、自然環境を活用した体験プログラムを積極的に展開するとともに、自然観賞やレクリエーション活動の場として整備します。

② 持続可能な社会づくりを推進する整備

里山生活で行われていた炭焼き、堆肥作りなどのリサイクル活動を行う場としてバックヤード*1を整備し、公園内で発生する間伐材や落葉等をリサイクルする体験や樹林管理などの自然学習プログラムを積極的に展開していきます。

③ 自然環境を活かした心身のリフレッシュ

樹林を巡り、自然を満喫できる散策路や、木登りなど林間活動ができるレクリエーションエリアを整備し、憩いや癒しを感じながら心身のリフレッシュが図れる場とします。また、これらの施設や豊かな自然環境を活かした各種活動を積極的に展開します。

土地利用についての考え方

本公園の整備・管理・運営の基本である「自然環境の保全・活用」へ対応するため、マルバオモダカなどの希少生物の生育・生息地の保全を図るとともに、大規模な造成を伴う施設の縮小・削減、林床植生*2を活用した樹林内活動空間づくり、公園区域外への影響を軽減するための緩衝緑地帯の設置等により、自然環境や景観に配慮した土地利用を行っていきます。

*1 バックヤード……公園の維持管理で発生する廃棄物をリサイクル処理したり草花の育苗を行うなど裏方の作業場所のこと。

*2 林床植生……樹林の地表に近い部分に生育している低木や草花のこと。

自然活用ゾーンの整備イメージ



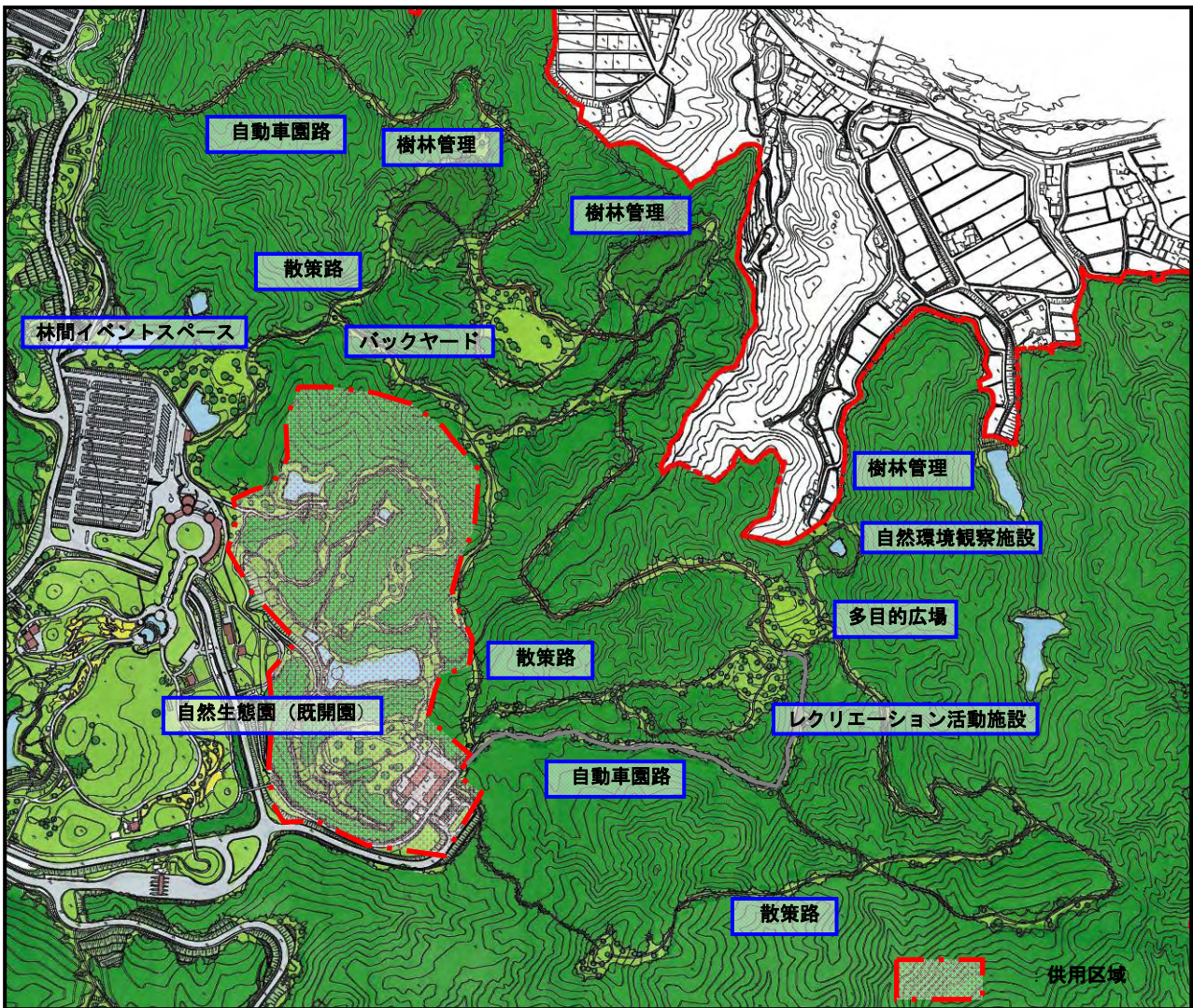
散策路



自然環境観察施設



多目的広場



林間イベントスペース



バックヤード



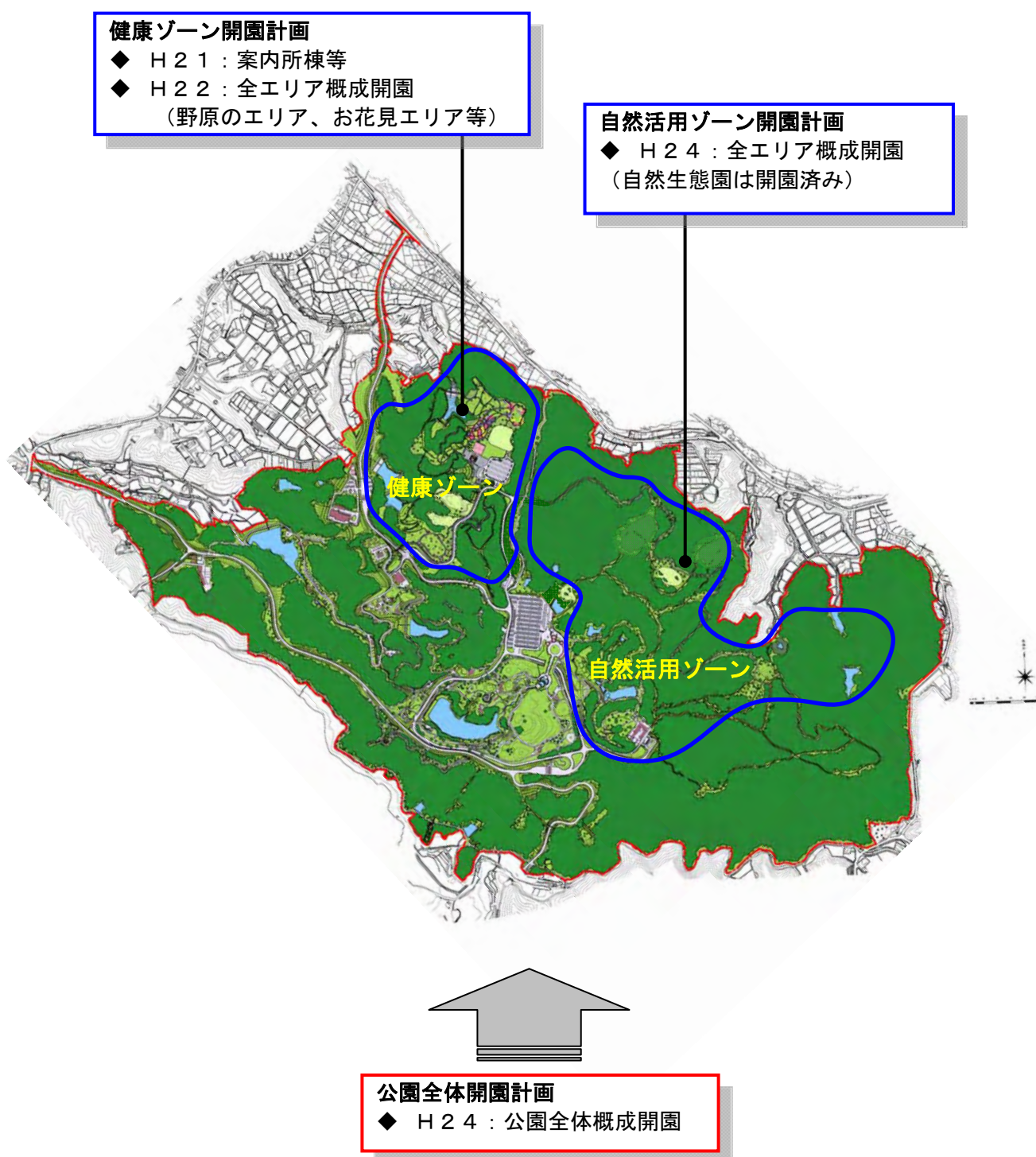
レクリエーション活動施設

開園スケジュールの考え方

健康ゾーンについては、平成21年度初頭を目途にセンターエリアの一部（案内所棟等）を追加開園し、平成22年度末までに残るエリアの整備を概成させ、健康ゾーンの全エリア開園を目指します。

さらに、自然活用ゾーン（自然生態園は開園済み）については、平成24年度末までに整備を概成させ、公園全域の概成開園を目指します。

開園計画イメージ



3. 管理運営方針

来園者の皆様に一層安全かつ快適に本公園を利用していただけるよう、継続的なコスト縮減を図りつつ、効率的・効果的な維持・管理・運営を行っていくこととします。同時に、本公園が年間を通じて有効に利用され、また、四国地方の歴史・文化の継承や新しい文化のはぐくみ、地域とのふれあいのできる公園となるように利用の促進に努めていきます。

維持・管理・運営内容

以下の(1)～(4)に留意しながら、安全はもとより、効率的・効果的な維持・管理・運営に努めていくこととします。

(1) すべての人に安全・安心な管理・運営

公園施設のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、非常時における通報システムや避難システムの充実により、だれもが安全・安心に公園をご利用いただけるような管理運営に努めていきます。

(2) ライフサイクルコストを縮減する維持・管理

今後の開園区域の拡大に対応して、コスト縮減に努めライフサイクルを考慮した効率的な維持・管理を行うとともに、持続可能な社会づくりを進めていくため、植物についてはあらかじめ、管理費用を低く抑えられる種、郷土種等の植栽、施設については管理費用の少ない設計を選択的に用いるなどの取組みに努めていきます。

(3) 自然環境にやさしい維持・管理

自然環境の保全・活用や持続可能な社会づくりを進めていくため、植物性廃棄物の堆肥化等によりリサイクルに努めるとともに、水の循環利用等にも取り組んでいきます。

(4) ボランティア参加による維持・管理・運営

市民に開かれた維持・管理・運営を進める公園となっていくため、公園内でのボランティア活動の一層の拡大・充実等により、現在行っている体験学習等に止まることなく、公園の維持・管理・運営へ積極的に参加していただくことを目指します。

また、満濃池をはじめ地域の歴史・文化についてもボランティアガイドだけでなく、案内板においても解説の充実を努めます。

利用促進内容

本公園が有効に利用されよう、年間を通じた広報活動、各種イベントの企画、運営等を行い、公園の利用の促進に努めていきます。

中期的には、皆様方に一層ご来園いただけるよう、以下の4点を中心として積極的な利用の促進に努めていきます。

(1) さらなる来園者数の拡大

豊かな自然や空海に代表される歴史・文化など四国の良さを十分に満喫できるような公園の整備に努めるとともに、イベントや夜間開園等のソフト面の充実、岡山、関西圏等の広域圏に対する広報活動、各種団体に対する積極的な情報提供等の強化に努め、更なる来園者の拡大を図ります。

(2) 再来園の促進

整備の進展に伴い、公園で体験できる内容が増えていくことから、来園者の皆様方が、常に新しい感動を体験していただけるよう、一度だけの来園では体験し尽くせない魅力をアピールすることにより、繰り返しご来園いただけるよう努めます。

(3) 新しい需要の掘り起こし

近年ニーズの高まりを見せているエコツーリズムや歴史・文化を楽しむ観光等の新たな観光需要に着目し、公園の運営等に盛り込むことによりこれらの新たな来園需要を掘り起こすよう努めます。

(4) 利用促進プロジェクトの検討

満濃池を活かした四国ならではの公園とするため、公園利用者のニーズの把握や今後の需要動向の予測、利用促進に向けた方策の検討等について、学識経験者、関係機関(香川県および周辺市町)、地域の担い手などの外部有識者等の意見も取り入れて公園利用方策を検討します。

具体的な取組み

具体的には、特に以下の取組みを重点的に進めていくこととします。

○情報提供の充実

四国内外のマスコミ等への積極的な情報提供、公園ホームページの更新等、様々な媒体を活用して、公園の広報、園内情報のリアルタイムでの提供に努めます。

※公園ホームページアドレス

<http://www.mannoukouen.go.jp/>



○一層の魅力づくり、多彩なイベントの開催

国営公園ならではの年間を通じた花修景を、今後も継続、充実します。

また、来園者の皆様方のニーズを踏まえつつ、公園の特性を活かした多彩なイベントを実施していきます。



夏期のコンサート
MONSTER baSH 2008
(毎年定期的に開催)



コスモスフェスタ (秋)



リレーマラソン (冬)

○幅広い利活用の促進

幼稚園、学校等の園・校外学習や地域住民の交流の場等として、より一層の活用を図ります。

さらに、地元まんのう町開催イベント（満濃池ゆる抜き、かりんまつり等）との連携を継続して行うほか、四国各地のお祭りや市町村の紹介等を通じて、広域的な情報発信、地域間交流を促進していきます。



学童向けのハーブ教室



屋内での里山体験



まんのう太鼓
(市民活動の発表の場)

○市民参加による管理運営の充実

現在実施している体験学習、インタープリテーション*³、里山管理等、ボランティアの方々と一緒になった管理運営を継続・発展させていきます。



インタープリターボランティアによる自然解説



里山で昔から行われてきた稲作体験



ボランティアによるコスモスの花がら摘み

*³ インタープリテーション……自然・文化・歴史をわかりやすく伝えること。知識そのものではなく、その裏側にある「メッセージ」を伝える行為、あるいはその技能。

4. 今後5年間の事業に伴い期待される効果

1. 四季折々の花木

これまでの中央広場ゾーンの草花主体から桜、紅葉をはじめ四国特有の柑橘類等により、子供からお年寄りまで幅広い花木の趣を感じ、心身の健康づくりが行える場所を提供できます。

2. 全天候型多目的運動場と芝生広場

屋根付きのため、雨天、炎天時においても天候を気にせず利用することができ、芝生広場では軟らかいボールでキャッチボールやミニサッカーなど簡易なボール運動もできるなど、子供からお年寄りまで年齢に合わせた運動が行える場所を提供できます。

3. だれもが利用しやすい公園

ユニバーサルデザインに配慮した施設整備を進めることで、誰もが安全で安心して利用しやすい公園となります。

4. 自然環境とのふれあい

良好な散策空間を提供することにより、豊かな自然環境とふれあうことができるようになります。また、歩行動線の全園ネットワーク化が概成し、憩いや安らぎを感じながら全園を周遊できる新たな利用メニューの提供が期待できます。

5. 環境に負荷をかけない公園

樹林管理やバックヤードの整備により、資源の再利用や環境への負荷の低減等、持続可能な社会づくりの模範的な取組みを体験・学習出来る場を提供できます。

6. 入園者数の増加

更なる魅力アップとして、健康ゾーンと自然活用ゾーンが開園することによって四季を通じた花風景が提供されるなど年間を通じて魅力ある公園となり、繰り返しご来園いただけることで入園者の増加が期待できます。

7. 地域の観光振興や活性化に貢献

自然環境を活かしたイベントを地元などと連携して積極的に行うことにより、地域の観光振興や活性化が見込まれます。

なお、本プログラムは、社会情勢の変化や事業の進捗状況などを踏まえ、随時見直しをしていく予定です。